

# 四半期報告書

(第148期第1四半期)

自 平成25年4月1日

至 平成25年6月30日

日本板硝子株式会社

(E01121)

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月5日
【四半期会計期間】	第148期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長兼CEO 吉川 恵治
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	03-5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1	主要な経営指標等の推移	1
2	事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1	事業等のリスク	2
2	経営上の重要な契約等	2
3	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

### 第3 提出会社の状況

1	株式等の状況	7
	(1) 株式の総数等	7
	(2) 新株予約権等の状況	7
	(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
	(4) ライツプランの内容	7
	(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
	(6) 大株主の状況	7
	(7) 議決権の状況	8
2	役員の状況	8

### 第4 経理の状況

1	要約四半期連結財務諸表	
	(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	10
	要約四半期連結損益計算書	10
	要約四半期連結包括利益計算書	11
	(2) 要約四半期連結貸借対照表	12
	(3) 要約四半期連結持分変動計算書	14
	(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
	(5) 要約四半期連結財務諸表注記	16
2	その他	28

第二部	提出会社の保証会社等の情報	28
-----	---------------	----

[四半期レビュー報告書]

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第147期 第1四半期連結 累計期間	第148期 第1四半期連結 累計期間	第147期
会計期間		自 2012年 4月1日 至 2012年 6月30日	自 2013年 4月1日 至 2013年 6月30日	自 2012年 4月1日 至 2013年 3月31日
売上高	(百万円)	131,221	150,690	521,346
税引前四半期利益又は税引前利益 (△は損失)	(百万円)	△12,181	△5,364	△31,096
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益(△は損失)	(百万円)	△11,123	△7,112	△34,324
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)包括利益	(百万円)	△32,821	10,956	△14,957
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	127,139	155,985	145,031
総資産額	(百万円)	799,158	894,549	885,436
親会社所有者帰属持分比率	(%)	15.9	17.4	16.4
親会社の所有者に帰属する基本的 1株当たり四半期(当期)利益 (△は損失)	(円)	△12.33	△7.88	△38.04
親会社の所有者に帰属する希薄化後 1株当たり四半期(当期)利益 (△は損失)	(円)	△12.33	△7.88	△38.04
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△6,787	△6,559	14,213
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△6,554	△2,064	△7,041
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	11,448	△14,507	27,945
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	21,661	46,113	65,173

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

4. IAS第19号「従業員給付」の改訂の適用に伴い、第147期第1四半期連結累計期間及び第147期については、当該改訂の適用を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当社グループが前事業年度の有価証券報告書で開示した事業等のリスクの分析につきましては、当第1四半期連結累計期間においても引き続き有効なものと考えております。当第1四半期連結累計期間において、その規模と性質上、当社グループの事業等のリスクの状況に重要な影響を及ぼすと考えられるような事象は、発生しませんでした。

また、当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況は、当第1四半期連結累計期間においては存在しておりません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。全ての財務数値は、国際会計基準（IFRS）ベースで記載しております。

#### （1）業績の状況

当第1四半期において、建築用ガラス市場及び自動車用ガラス市場の市況は概ね安定的に推移しました。前年において回復の兆しを見せていた市場で改善が継続する中、当社グループにとって重要な欧州の市場は引き続き低調でした。高機能ガラス市場は、総じて前年と同様の水準で推移しました。

欧州では、厳しい経済状況が引き続き建設活動やリフォーム需要に影響を及ぼしています。建築用ガラスの価格は、数量が引き続き歴史的な低水準で推移する中、当第1四半期において安定していました。自動車新車向け（OE）市場では、唯一英国が一定の成長の兆しを見せているものの、非常に厳しい状況が続いています。EU域内における乗用車販売台数は、過去20年間で最低の水準となりました。自動車補修用（AGR）市場における需要は、前年度末にかけての冬季の悪天候の影響により、需要が増加しました。高機能ガラス市場では、エンジン・タイミングベルト用ガラスコードの数量が増加しました。

日本では、新規住宅着工件数が前年よりさらに増加しており、建築用ガラス市場の見通しは引き続き改善しています。しかしながら、ガラス製品の需要の増加に結びつくまでには、もう少し時間を要することが見込まれています。OE市場は、円安が自動車の輸出を下支えする状況が続いており、安定していました。AGR市場は、軟化しました。高機能ガラス市場は、プリンター、スキャナーなどの電子機器の需要が安定しており、その結果、前年と同様の水準で推移しました。

北米では、主に民間の住宅着工件数の増加により、建築用ガラス市場は引き続き改善しています。OE市場では、当第1四半期において乗用車生産台数が伸びており、前年における着実な改善が持続しています。AGR市場は安定的に推移しました。

その他の地域では、南米の建築用ガラス市場と自動車用ガラス市場の需要が増加しました。東南アジアの市場は、域内のガラス販売数量の増加により、改善しました。

当社グループの事業は、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業の3種類のコア製品分野からなっています。

「建築用ガラス事業」は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外装用加工ガラス製品の製造・販売からなっており、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高のうち38%を占めています。ソーラー・エネルギー（太陽電池用ガラス）事業も、ここに含まれます。

「自動車用ガラス事業」は、新車組立用及び補修用市場向けに種々のガラス製品を製造・販売しており、当社グループの売上高のうち52%を占めています。

「高機能ガラス事業」は、当社グループの売上高のうち10%を占めており、小型ディスプレイ用の薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、及び電池用セパレーターやエンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、様々な事業からなっています。

セグメント別の業績概要は下表の通りです。

(単位：百万円)

	売上高		個別開示項目前営業利益 (△は損失)	
	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
建築用ガラス事業	57,655	52,371	322	△3,278
自動車用ガラス事業	77,656	63,154	2,870	2,615
高機能ガラス事業	15,155	15,134	2,016	1,504
その他	224	562	△3,215	△1,902
合計	150,690	131,221	1,993	△1,061

#### ①建築用ガラス事業

当第1四半期連結累計期間における建築用ガラス事業の業績は、主にリストラクチャリング効果の発現により、前年同期と比較して大幅に改善しました。売上高は、円安による為替換算の影響により増加しました。

欧州における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の39%を占めています。売上高は、現地通貨ベースでは、数量が15%減少した2013年3月期の水準をさらに下回っています。需要は当第1四半期において低い水準で推移しました。販売価格は引き続き歴史的な低水準でありながら、安定していました。営業損失は、第1四半期におけるリストラクチャリング効果の発現により縮小しました。

日本における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の30%を占めています。売上高は、前年同期と比較してわずかに上回りましたが、当第1四半期において生産設備の操業度が低調であったため、営業損失は拡大しました。しかしながら、国内市場の状況は引き続き少しずつ改善してきており、その影響により今後は損益が改善することが見込まれています。

北米における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の10%を占めています。売上高と営業利益は、前年同期と比較して改善しています。力強い国内需要により数量が増加し、価格は安定的に推移しました。

その他の地域では、売上高と営業利益は前年同期と比較して増加しています。南米と東南アジアの市場環境は、需要の増加によって改善しています。

以上より、建築用ガラス事業では、売上高は577億円、個別開示項目前営業利益は3億円となりました。

#### ②自動車用ガラス事業

自動車用ガラス事業の売上高は、円安による為替換算の影響により、前年同期と比較して増加しています。市場環境は引き続き厳しく、特に欧州の市場において顕著となっています。

欧州における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の46%を占めています。欧州の新車向け(OE)部門の売上高は、数量が引き続き歴史的な低水準で推移する中、新車種が市場へ投入されたことにより、現地通貨ベースでは前年同期と比較して増加しています。営業利益は、主にリストラクチャリング施策の実施に伴うコスト削減効果の発現により、前年同期と比較して改善しています。補修用(AGR)部門の業績も、需要の増加によって前年同期と比較して改善しています。

日本における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の15%を占めています。売上高は前年同期と同様の水準となりましたが、営業利益は当第1四半期に発現したコスト削減の効果により増加しています。AGR部門の業績は、自動車保険制度の改定に伴う需要の低下によって、前年同期と比較してわずかに下回りました。

北米における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の24%を占めています。OE部門の売上高は、現地通貨ベースでは前年同期と同様の水準となりましたが、収益性は依然として低水準で推移しました。AGR部門の業績は、前年同期と同様の水準となりました。

その他の地域では、南米と東南アジアにおける乗用車需要の増加により、売上高が前年同期と比較して増加しています。

以上より、自動車用ガラス事業では、売上高は777億円、個別開示項目前営業利益は29億円となりました。

### ③高機能ガラス事業

高機能ガラス事業の売上高は、前年同期と同様の水準となりました。その一方で、円安による為替換算の影響や当第1四半期に発現したコスト削減の効果により、前年同期と比較して営業利益は増加しました。ディスプレイ用の薄板ガラスの需要は、スマートフォンやタブレットデバイスの消費者需要が引き続き旺盛であったため、安定しています。その一方で、その他用途向けの薄板ガラスの数量は減少しました。多機能プリンター向け部材の需要は前年同期と比較して増加しています。エンジン・タイミングベルト用グラスコードの数量は増加しています。これは、当社の製品が組み込まれた比較的小型で燃焼効率が高いエンジンを搭載した乗用車の需要が増加しているためであります。

以上より、高機能ガラス事業では、売上高は152億円、個別開示項目前営業利益は20億円となりました。

### ④その他

この分野には、全社費用、連結調整、前述の各セグメントに含まれない小規模な事業、並びにピルキントン社買収に伴い認識された無形資産の償却費が含まれています。その他における営業損失は、前年同期と比較して増加しています。これは、前年同期において発生した一過性の収益が、当第1四半期において発生しなかったことによるものです。

以上より、その他では、売上高は2億円、個別開示項目前営業損失は32億円となりました。

### ⑤持分法適用会社

持分法による投資利益は、前年同期と比較してわずかに上回りました。当社グループのブラジルにおけるジョイント・ベンチャーであるCebrace社の利益は、需要の増加により増加しましたが、コロンビアの関連会社で発生した開業前費用により、一部相殺される結果となりました。中国の建築用ガラスのジョイント・ベンチャーや関連会社の収益性は前年同期と比較して改善しています。また、ロシアのジョイント・ベンチャーの業績は、前年同期と同様の水準となりました。

以上より、持分法による投資利益はわずかにプラス（前年同期は1億円の損失）となりました。

参考までに、所在地別の業績は以下の通りです。

欧州は、当第1四半期連結累計期間の売上高が、円安に伴う為替換算の影響により、前年同期に比べて97億円増加し、605億円となりました。個別開示項目前営業損失は、主にリストラクチャリング施策の実施に伴うコスト削減効果の発現により、前年同期に比べて24億円改善し、4億円の損失となりました。

日本は、当第1四半期連結累計期間の売上高が、前年同期に比べて15億円減少し、369億円となりました。また、個別開示項目前営業利益は前年同期に比べて3億円増加し、11億円となりました。建築用ガラス事業が依然として厳しい市場環境の影響を受ける一方、自動車用ガラス事業及び高機能ガラス事業の営業利益は前年同期に比べて改善しました。

北米は、当第1四半期連結累計期間の売上高が、欧州と同様に、円安に伴う為替換算の影響により、前年同期に比べて52億円増加し、245億円となりました。個別開示項目前営業損益は、前年同期に比べて1億円悪化し、1億円の損失となりました。

その他の地域は、当第1四半期連結累計期間の売上高が、前年同期に比べて61億円増加し、288億円となりました。個別開示項目前営業利益は、東南アジアが好調であった建築用ガラス事業の業績の改善により、前年同期に比べて5億円増加し、15億円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当社グループでは、フリー・キャッシュ・フローを安定的に生み出すことが、短期的な有利子負債の削減につながるだけでなく、長期的にも収益性の高い成長分野に投資する機会をもたらすと考えており、グループの重要課題であると認識しております。

当第1四半期連結累計期間における営業キャッシュ・フローは、66億円のマイナスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは21億円のマイナスでしたが、この中には有形固定資産の購入支出41億円が含まれています。以上より、フリー・キャッシュ・フローは、86億円のマイナスとなりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの主要な市場では、依然として厳しい状況が続いています。当社グループは、2014年3月期の残りの期間において、欧州の市場は引き続き低調で推移するものの、数量がこれ以上大きく減少することは想定していません。欧州の建築用ガラス市場における価格は、2013年3月期では歴史的に低い水準となりましたが、これ以上下落することは想定していません。価格を取り巻く環境は、2013年3月期に実施された業界全体での生産能力の削減に伴う、設備稼働率の向上によって改善するものと見込んでいます。日本の市場は、円安や政府の成長戦略がもたらす景況の改善を享受するものと想定しています。また、日系自動車メーカーの海外輸出の増加に伴って、自動車用ガラスの数量が増える見込んでいます。北米における数量は2013年3月期で見られた改善が継続し、新興国・地域の市場においても数量が増加することが見込まれます。ソーラー用ガラスの出荷数量も安定し、高機能ガラスの市場も2013年3月期の水準を概ね維持するものと見込んでいます。

今後、当社グループは、実行されたリストラクチャリング施策による効果を更に享受することになります。当社グループでは、リストラクチャリング施策による効果が2015年3月期以降、年間約300億円になると想定しています。また、リストラクチャリング費用の総額は300億円になるものと見込んでおります。なお、これまでに発生した非キャッシュ費用である減損損失は90億円であります。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は20億円となりました。事業部門別の内訳は、建築用ガラス事業部門にて7億円、自動車用ガラス事業部門にて7億円、高機能ガラス事業部門にて3億円、その他の事業部門において3億円となっております。

(5) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが保有する主要な設備について重要な異動はありません。

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について重要な変更はありません。

また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

2013年6月末時点の総資産は8,945億円となり、2013年3月末より91億円増加しました。

当社グループの資本の源泉としては、事業活動からの営業キャッシュ・フロー、銀行からの借入金、社債、ファイナンス・リース契約、または資本が挙げられます。2013年6月末現在、当社グループの総借入残高の構成割合は、銀行からの借入金が約85%、社債が約14%、ファイナンス・リース契約が約1%となっております。

当社グループは、最適な調達方法と調達期間の組み合わせにより、適切なコストで安定的に資金を確保することを、資金調達の基本方針としております。

2013年6月末時点のネット借入残高は、2013年3月末より171億円増加し、3,780億円となりました。このネット借入残高の増加は、円安による為替換算の影響や当第1四半期連結累計期間における全般的に低調な損益状況と季節的な運転資本の増加によるものです。為替変動により、ネット借入は約67億円増加しました。2013年6月末時点の総借入残高は、4,458億円となっております。

2013年6月末時点で、当社グループは未使用の借入枠を401億円保有しております。また、2013年3月に契約を締結した借入金の内、未実行残が470億円あり、今後当期中に満期を迎える有利子負債の返済に充当する予定となっております。

2013年6月末時点における資本合計は、円安による為替換算の影響が四半期損失を上回ったため、2013年3月末より112億円増加し、1,666億円となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営の基本方針は、「オープンでフェア」「企業倫理の遵守」「地球環境問題への貢献」を基本姿勢とし、「先進性があり、かつグローバルで存在感のある企業」と同時に「すべてのステークホルダーにとってのグループ企業価値の向上」を目指しております。

グループ・ビジョンは、「ガラス技術で世界に変革を」です。

グループ・ミッションは、「革新的な高性能ガラス製品の分野でグローバルリーダーとなることを目指すと共に、省エネ・創エネに貢献し、安全で倫理的な事業活動を行う」ことです。

このグループ・ビジョン並びにミッションが、当社グループの戦略の土台となります。

2008年のリーマン・ショック以降、当社グループの主要な市場は、厳しい経済状況の影響を受けております。ここ数年、当社グループの欧州市場は、政府と民間における債務の増加により、長期にわたって低成長またはマイナス成長となっており、市況がかなり悪化しております。このような状況の中、当社グループは、まずは収益性の回復に注力し、これを実現した後に引き続き、更なる大きな利益成長に向けて取り組んでまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,775,000,000
計	1,775,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2013年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (2013年8月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	903,550,999	903,550,999	東京証券取引所第一部	単元株式数 1,000株(注2)
計	903,550,999	903,550,999	—	—

(注) 1. 提出日現在の発行数には、2013年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2. 完全議決権株式であり、権利内容に特に限定のない当社における標準となる株式であります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2013年4月1日～ 2013年6月30日	—	903,550,999	—	116,449	—	124,772

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2013年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

(2013年6月30日現在)

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 963,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 899,651,000	899,651	—
単元未満株式	普通株式 2,936,999	—	—
発行済株式総数	903,550,999	—	—
総株主の議決権	—	899,651	—

② 【自己株式等】

(2013年6月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
日本板硝子(株)	東京都港区三田三丁目5番27号	963,000	—	963,000	0.10
計	—	963,000	—	963,000	0.10

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（2013年4月1日から2013年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
売上高	(5) (e)	150,690	131,221
売上原価		△116,881	△103,010
売上総利益		33,809	28,211
その他の収益		2,393	1,927
販売費		△14,202	△11,950
管理費		△16,558	△15,844
その他の費用		△3,449	△3,405
個別開示項目前営業利益 (△は損失)	(5) (e)	1,993	△1,061
個別開示項目	(5) (f)	△2,391	△7,448
営業損失	(5) (e)	△398	△8,509
金融収益	(5) (g)	760	484
金融費用	(5) (g)	△5,751	△4,053
持分法による投資利益 (△は損失)		25	△103
税引前四半期損失		△5,364	△12,181
法人所得税	(5) (h)	△1,517	1,199
四半期損失		△6,881	△10,982
非支配持分に帰属する四半期利益		231	141
親会社の所有者に帰属する四半期損失		△7,112	△11,123
		△6,881	△10,982
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益	(5) (i)		
基本的1株当たり四半期損失 (円)		△7.88	△12.33
希薄化後1株当たり四半期損失 (円)		△7.88	△12.33

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
四半期損失	△6,881	△10,982
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられない項目		
退職給付引当金の再測定 (法人所得税控除後)	△133	—
純損益に振り替えられない項目合計	△133	—
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	18,791	△20,020
売却可能金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	△40	△129
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動 (法人所得税控除後)	△398	△2,013
その他	—	△10
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	18,353	△22,172
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)	18,220	△22,172
四半期包括利益合計	11,339	△33,154
非支配持分に帰属する四半期包括利益	383	△333
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	10,956	△32,821
	11,339	△33,154

## (2) 【要約四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (2013年6月30日)	前連結会計年度末 (2013年3月31日)
<b>資産</b>		
非流動資産		
のれん	125,698	116,768
無形資産	87,543	84,496
有形固定資産	277,204	267,983
投資不動産	679	635
持分法で会計処理される投資	47,111	45,063
売上債権及びその他の債権	15,184	16,514
売却可能金融資産	7,071	6,742
デリバティブ金融資産	1,339	1,362
繰延税金資産	54,783	51,797
	<u>616,612</u>	<u>591,360</u>
流動資産		
棚卸資産	106,785	100,790
未成工事支出金	615	428
売上債権及びその他の債権	103,253	103,928
売却可能金融資産	612	652
デリバティブ金融資産	1,415	2,168
現金及び現金同等物	65,040	83,472
	<u>277,720</u>	<u>291,438</u>
売却目的で保有する資産	217	2,638
	<u>277,937</u>	<u>294,076</u>
資産合計	<u>894,549</u>	<u>885,436</u>
<b>負債及び資本</b>		
流動負債		
社債及び借入金	131,073	152,585
デリバティブ金融負債	1,398	1,744
仕入債務及びその他の債務	116,121	117,151
引当金	15,432	17,982
繰延収益	2,827	2,914
	<u>266,851</u>	<u>292,376</u>
売却目的で保有する資産に 直接関連する負債	—	666
	<u>266,851</u>	<u>293,042</u>

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (2013年6月30日)	前連結会計年度末 (2013年3月31日)
非流動負債		
社債及び借入金	311,580	291,793
デリバティブ金融負債	1,734	1,727
仕入債務及びその他の債務	808	2,344
繰延税金負債	24,469	23,641
退職給付引当金	93,522	89,760
引当金	19,109	18,620
繰延収益	9,857	9,056
	<u>461,079</u>	<u>436,941</u>
負債合計	<u>727,930</u>	<u>729,983</u>
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	116,449	116,449
資本剰余金	127,514	127,511
利益剰余金	△18,520	△11,275
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	△68,048	△68,048
その他の資本の構成要素	△1,410	△19,606
親会社の所有者に帰属する持分合計	<u>155,985</u>	<u>145,031</u>
非支配持分	10,634	10,422
資本合計	<u>166,619</u>	<u>155,453</u>
負債及び資本合計	<u>894,549</u>	<u>885,436</u>

## (3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金 (IFRS 移行時の 累積換算 差額)	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2013年4月1日残高	116,449	127,511	△11,275	△68,048	△19,606	145,031	10,422	155,453
四半期包括利益合計			△7,245		18,201	10,956	383	11,339
剰余金の配当						—	△171	△171
新株予約権の増減					△6	△6		△6
自己株式の取得及び処分		3			1	4		4
2013年6月30日残高	116,449	127,514	△18,520	△68,048	△1,410	155,985	10,634	166,619

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金 (IFRS 移行時の 累積換算 差額)	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2012年4月1日残高	116,449	127,511	30,793	△68,048	△45,392	161,313	9,222	170,535
四半期包括利益合計			△11,134		△21,687	△32,821	△333	△33,154
剰余金の配当			△1,354			△1,354	△411	△1,765
自己株式の取得及び処分					1	1		1
2012年6月30日残高	116,449	127,511	18,305	△68,048	△67,078	127,139	8,478	135,617

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
営業活動による現金生成額	(5) (1)	△2,739	△3,062
利息の支払額		△3,639	△2,558
利息の受取額		667	335
法人所得税の支払額		△848	△1,502
営業活動によるキャッシュ・フロー		△6,559	△6,787
投資活動によるキャッシュ・フロー			
持分法適用会社からの配当金受領額		36	34
ジョイント・ベンチャー及び関連 会社の取得による支出		△21	△52
子会社の取得による支出 (取得額の純額)		△3	△1,217
子会社の売却による収入 (売却額の純額)		1,606	—
有形固定資産の取得による支出		△4,051	△7,492
有形固定資産の売却による収入		541	1,402
無形資産の取得による支出		△329	△293
売却可能金融資産の購入による支出		△2	△2
売却可能金融資産の売却による収入		1	—
貸付金の増減額 (△は増加)		△85	961
その他		243	105
投資活動によるキャッシュ・フロー		△2,064	△6,554
財務活動によるキャッシュ・フロー			
親会社の株主への配当金の支払額		△5	△1,244
非支配持分株主への配当金の支払額		△171	△408
社債償還及び借入金返済による支出		△38,197	△7,507
社債発行及び借入れによる収入		23,866	20,607
財務活動によるキャッシュ・フロー		△14,507	11,448
現金及び現金同等物の増減額		△23,130	△1,893
現金及び現金同等物の期首残高	(5) (m)	65,173	24,797
現金及び現金同等物に係る換算差額		4,070	△1,243
現金及び現金同等物の四半期末残高	(5) (m)	46,113	21,661

(5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

(a) 報告企業

当社及び連結子会社（以下、当社グループ）は、建築用及び自動車用ガラスの生産・販売における世界的なリーディング・カンパニーであると共に、様々なハイテク分野で活躍する高機能ガラス事業を展開しております。当社グループの親会社である日本板硝子株式会社は、日本に所在する企業であり、東京証券取引所にて株式を上場しております。当社の登記されている本社の住所は、東京都港区三田三丁目5番27号です。

(b) 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2第1項第2号に定める要件を満たしており、同条に定める特定会社に該当いたします。

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、投資不動産、デリバティブ金融商品、売却可能金融商品を除き、取得原価を基礎として作成されております。

本要約四半期連結財務諸表は、2013年8月5日に当社代表執行役社長兼CEO吉川恵治及び当社最高財務責任者である代表執行役副社長兼CFOマーク・ライオンズによって承認されております。

要約四半期連結財務諸表の表示通貨は日本円であり、特に注釈の無い限り、百万円単位での四捨五入により表示しております。

(c) 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度（2013年3月期）に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

IAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」に従い、下記の会計基準の適用を受けて、主要な連結財務諸表等の比較情報について修正を行っております。

IAS第19号「従業員給付」は、2011年6月に改訂が公表されました。当社グループの退職後給付の会計処理では、従来は利息費用と期待運用収益が個別に算定されていましたが、IAS第19号の改訂により、該当地域毎に確定給付負債（資産）の純額に対して個別の割引率を適用して利息純額を算定する処理に変更されました。この改訂による、当社グループの退職給付引当金に対する重要な影響はないと考えております。すなわち、当連結会計年度末（2014年3月末）においては、当社グループは最新の数理計算の結果に基づき退職給付引当金の計上を行いますが、この改訂による利息費用の増加は、連結包括利益計算書において認識される損益の増減によって相殺されるものと考えております。一方、当連結会計年度の各四半期末日においては、当社グループは、グループ会計方針に基づき期首の確定給付負債（資産）の純額に重要な影響が生ずる場合に限り、数理計算上の仮定を更新したうえで退職給付引当金の再測定を行います。従って各四半期では、この改訂による利息費用の増加が連結包括利益計算書において認識される損益の増減によって相殺されず、結果的に資本の金額に影響を与える可能性があります。

当社グループは、IAS第19号の改訂を遡及適用しており、このため前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報を修正しております。前述のような四半期決算報告に関するグループ会計方針に従い、修正された前第1四半期連結累計期間（2013年3月期第1四半期）の連結損益計算書における利息費用の増加は、連結包括利益計算書における損益の増減によって相殺されません。しかし年度決算報告では、修正された前連結会計年度の連結損益計算書における利息費用の増加は連結包括利益計算書における損益の増減によって相殺されることになり、結果として前連結会計年度末（2013年3月末）の連結貸借対照表には影響は生じません。IAS第19号改訂の適用による影響の要約は、注記（5）(q)「前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正」に記載しております。

IFRS第10号「連結財務諸表」は、連結財務諸表における子会社の連結の基礎として支配の概念を規定しています。この基準は、支配の有無を決定する際の追加的なガイダンスとなります。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第11号「共同支配の取決め」は、従来のIAS第31号「ジョイント・ベンチャーに対する持分」及びSIC第13号「共同支配企業—共同支配投資企業による非貨幣性資産の拠出」を置き換える基準です。この基準は、複数の当事者が共同支配を有する取決めの分類について規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第12号「他の企業への関与の開示」は、共同支配の取決め、関連会社、特別目的会社並びに他の非連結の事業体を含む、他の事業体に対するあらゆる形式の持分に関する開示要求を規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありません。

IFRS第13号「公正価値測定」は、公正価値を定義し、単一のIFRSで公正価値の測定に関するフレームワークを示し、開示要求を規定しています。この新しい会計基準の適用による、当社グループの業績や資本に対する影響はありませんが、四半期決算報告において開示が要求される事項については、注記(5)(n)「金融商品」に記載しております。

(d) 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

当社グループは、将来に関する見積り及び仮定の設定を行っております。会計上の見積りの結果は、その定義上、関連する実際の結果と異なることがあります。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び仮定は、前連結会計年度(2013年3月期)に係る連結財務諸表と同様であります。

見積り及び判断は、継続的に評価され、過去の経験及び他の要因(状況により合理的だと認められる将来事象の発生見込みを含む)に基づいております。

(e) セグメント情報

当社グループはグローバルに事業活動を行っており、以下の報告セグメントを有しております。

建築用ガラス事業は、各種の商業向け及び住宅向けの建築用ガラスの製造及び販売をしております。このセグメントには、太陽電池用ガラス事業も含まれます。

自動車用ガラス事業は、新車向け及び補修向けに様々なガラスを製造販売しております。

高機能ガラス事業は、小型ディスプレイ用の超薄型ガラスの製造及び販売、プリンターレンズ及び光部品、鉛蓄電池用セパレータ及びエンジン用のグラスコード等の特殊ガラス繊維製品等の複数の事業によって構成されております。

その他の区分は、本社費用、連結調整並びに上記報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

当第1四半期連結累計期間(自2013年4月1日至2013年6月30日)における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

(単位:百万円)

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	57,655	77,656	15,155	224	150,690
セグメント間売上高	4,450	470	21	1,286	6,227
セグメント売上高計	62,105	78,126	15,176	1,510	156,917
ピルキントン買収に係る償却費控除 前セグメント利益	322	2,870	2,016	△1,106	4,102
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△2,109	△2,109
個別開示項目前営業利益	322	2,870	2,016	△3,215	1,993
個別開示項目					△2,391
営業損失					△398
金融費用(純額)					△4,991
持分法による投資利益					25
税引前四半期損失					△5,364
法人所得税					△1,517
四半期損失					△6,881

前第1四半期連結累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年6月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	52,371	63,154	15,134	562	131,221
セグメント間売上高	3,301	125	47	1,287	4,760
セグメント売上高計	55,672	63,279	15,181	1,849	135,981
ピルキントン買収に係る償却費控除 前セグメント利益	△3,278	2,615	1,504	△190	651
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△1,712	△1,712
個別開示項目前営業利益 （△は損失）	△3,278	2,615	1,504	△1,902	△1,061
個別開示項目					△7,448
営業損失					△8,509
金融費用（純額）					△3,569
持分法による投資損失					△103
税引前四半期損失					△12,181
法人所得税					1,199
四半期損失					△10,982

当第1四半期連結累計期間（自 2013年4月1日 至 2013年6月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	163,106	179,130	44,970	1,980	389,186
資本的支出（無形資産含む）	556	2,518	1,282	53	4,409

前第1四半期連結累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年6月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	156,893	165,811	48,618	215	371,537
資本的支出（無形資産含む）	2,687	5,023	368	29	8,107

ネット・トレーディング・アセットは、有形固定資産、投資不動産、無形資産（企業結合に係るものを除く）、棚卸資産、未成工事支出金、売上債権及びその他の債権（金融債権を除く）、仕入債務及びその他の債務（金融債務を除く）によって構成されております。

資本的支出は有形固定資産及び無形資産の追加取得によるものです。

## (f) 個別開示項目

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
個別開示項目（収益）：		
子会社の取得による収益	—	276
ジョイント・ベンチャーに対する 持分変動益	—	326
その他	62	—
	62	602
個別開示項目（費用）：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	△2,299	△4,679
有形固定資産等の減損損失	—	△3,302
係争案件の解決に係る費用	△96	△67
その他	△58	△2
	△2,453	△8,050
	△2,391	△7,448

当第1四半期連結累計期間における個別開示項目は以下の通りです。

リストラクチャリング費用（雇用契約の終了にかかる費用を含む）は、世界各地で発生した費用であり、この中には主として欧州において設備の休止状態を維持するに際して発生した費用も含まれます。

係争案件の解決にかかる費用は、欧州競争法違反の疑いにより欧州委員会が当社グループに対して過料を課する旨の決定を発表したことに続き、顧客である自動車メーカー数社によって行われた損害賠償請求に関して発生したものです。

前第1四半期連結累計期間における個別開示項目は以下の通りです。

子会社の取得による収益は、Flovetro SpAの株式の取得に伴い発生したものです（注記（5）(p)「企業結合」参照）。

ジョイント・ベンチャーに対する持分変動益は、当社グループのロシアにおけるジョイント・ベンチャーのリファイナンス（資本再編）に伴い発生したものであり、資本再編直前の1株当たり純資産簿価を上回る株式発行価格にて新規の投資家が同ジョイント・ベンチャーに対する出資を引き受けたことによるものです。

リストラクチャリング費用（雇用契約の終了にかかる費用を含む）は、当社グループのコスト削減計画に基づき、世界各地で発生した費用です。

有形固定資産等の減損損失は、主としてイタリア・ベニスの建築用ガラス製造設備に関するものです。

## (g) 金融収益及び費用

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
金融収益		
利息収入	686	409
為替差益	74	4
金融商品の公正価値の評価益：		
－金利スワップ	－	71
	<u>760</u>	<u>484</u>
金融費用		
社債及び借入金の支払利息	△4,519	△2,988
非支配持分に対する非持分金融商品で ある優先株式の支払配当金	△67	△54
為替差損	△278	△156
	<u>△4,864</u>	<u>△3,198</u>
時間の経過により発生した割引の戻し	△96	△71
退職給付費用		
－純利息費用	△791	△784
	<u>△5,751</u>	<u>△4,053</u>

## (h) 法人所得税

当第1四半期連結累計期間における法人所得税の負担率は、持分法による投資利益考慮前の税引前四半期損失に対して△28.1%となっております（前第1四半期連結累計期間は持分法による投資損失考慮前の税引前四半期損失に対して9.9%）。

なお、当第1四半期連結累計期間の法人所得税は、2014年3月31日時点の実効税率を合理的に見積り算定しております。

(i) 1株当たり利益

(a) 基本

基本的1株当たり利益は、親会社の所有者に帰属する四半期利益を、当該四半期連結累計期間の発行済普通株式の加重平均株式数で除して算定しております。発行済普通株式の加重平均株式数には、当社グループが買入れて自己株式として保有している普通株式は含まれません。

	当第1四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期損失 (百万円)	△7,112	△11,123
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	902,591	902,349
基本的1株当たり四半期損失 (円)	△7.88	△12.33

(b) 希薄化後

希薄化後1株当たり利益は、すべての希薄化効果のある潜在的普通株式が転換されたと仮定して、当期利益と発行済普通株式の加重平均株式数を調整することにより算定されます。当社グループにはストック・オプションによる希薄化効果を有する潜在的普通株式が存在します。ストック・オプションについては、付与された未行使のストック・オプションの権利行使価額に基づき、公正価値（当社株式の当期の平均株価によって算定）で取得されうる株式数を算定するための計算が行われます。前述の方法で計算された株式数は、発行済普通株式の加重平均株式数に加算されます。

	当第1四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
利益：		
親会社の所有者に帰属する四半期損失 (百万円)	△7,112	△11,123
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる損失 (百万円)	△7,112	△11,123
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	902,591	902,349
調整：		
- スtock・オプション (千株)	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる 普通株式の加重平均株式数 (千株)	902,591	902,349
希薄化後1株当たり四半期損失 (円)	△7.88	△12.33

(注) 当第1四半期連結累計期間及び前第1四半期連結累計期間においては、ストック・オプションの転換が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有しておりません。

## (j) 配当金

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
普通株式にかかる配当金決議額		
期末配当金の総額	—	1,244
1株当たりの配当額		
当第1四半期連結累計期間	0円	
(前第1四半期連結累計期間	1.5円)	

## (k) 為替レート

主要な通貨の為替レートは以下の通りです。

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)		前連結会計年度 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)		前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)	
	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート
英ポンド	152	151	131	141	127	125
米ドル	99	99	83	93	80	80
ユーロ	129	129	107	119	103	101

## (1) 営業活動によるキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期 連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
四半期損失	△6,881	△10,982
調整項目：		
法人所得税	1,517	△1,199
減価償却費（有形固定資産）	7,499	6,561
償却費（無形資産）	2,732	2,350
減損損失	—	3,302
有形固定資産除売却損益	△283	△799
子会社の売却損益	5	—
繰延収益の増減	△50	188
金融収益	△760	△484
金融費用	5,751	4,053
持分法による投資損失（△は利益）	△25	103
その他	17	△878
引当金及び運転資本の増減考慮前の営業活動によるキャッシュ・フロー	9,522	2,215
引当金及び退職給付引当金の増減	△7,381	△1,138
運転資本の増減：		
－棚卸資産の増減	△173	403
－未成工事支出金の増減	△156	△583
－売上債権及びその他の債権の増減	△4,762	△1,850
－仕入債務及びその他の債務の増減	211	△2,109
運転資本の増減	△4,880	△4,139
営業活動による現金生成額	△2,739	△3,062

## (m) 現金及び現金同等物

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年6月30日)	前第1四半期 連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年6月30日)
現金及び現金同等物	83,472	43,346
銀行当座借越	△18,299	△18,549
現金及び現金同等物の期首残高	65,173	24,797
現金及び現金同等物	65,040	40,321
銀行当座借越	△18,927	△18,660
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,113	21,661

## (n) 金融商品

## 経常的に公正価値で測定される資産及び負債に関する公正価値ヒエラルキー

レベル1：同一の金融資産及び負債について、活発な市場における（未調整の）市場価格があれば、当該市場価格

レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる市場価格以外のインプット

レベル3：市場価格に基づかない、観察不能なインプット

当第1四半期連結会計期間末（2013年6月30日）

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売却可能金融資産				
英国国債	3,749	—	—	3,749
上場株式	155	—	—	155
非上場株式	—	—	3,170	3,170
その他の債券	448	—	—	448
その他	—	—	161	161
デリバティブ金融資産				
金利スワップ	—	142	—	142
為替予約	—	894	—	894
商品スワップ	—	1,718	—	1,718
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	—	1,088	—	1,088
為替予約	—	602	—	602
商品スワップ	—	1,442	—	1,442

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>売却可能金融資産</b>				
英国国債	3,543	—	—	3,543
上場株式	143	—	—	143
非上場株式	—	—	3,144	3,144
その他の債券	415	—	—	415
その他	—	—	149	149
<b>デリバティブ金融資産</b>				
金利スワップ	—	101	—	101
為替予約	—	1,178	—	1,178
商品スワップ	—	2,251	—	2,251
<b>デリバティブ金融負債</b>				
金利スワップ	—	1,371	—	1,371
為替予約	—	923	—	923
商品スワップ	—	1,177	—	1,177

当第1四半期連結累計期間において、公正価値ヒエラルキーのレベル間の資産または負債の振替はありません。

レベル2の金融資産及び金融負債は、デリバティブ金融資産及びデリバティブ金融負債です。デリバティブ金融資産及び金融負債の公正価値は、取引先金融機関等から提示された価格や期末日現在の市場価格に基づき算定しております。

レベル3の金融資産は、主として日本で保有されている非上場株式です。非上場株式の公正価値は、純資産価額や将来予想キャッシュフロー等を使用した評価技法を用いて算定しております。レベル3の金融資産の公正価値は、様々な要因により変動します。レベル3の金融資産が主として日本の事業会社によって発行された非上場株式であるため、日本経済に関する成長予測は、これらの金融資産の公正価値に影響を与える主要な要因となります。

公正価値ヒエラルキーにおいてレベル3に区分された売却可能金融資産の調整表は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
4月1日現在	3,293	184
取得	28	—
公正価値ヒエラルキーの レベル2からレベル3への振替	—	3,107
連結損益計算書で認識された評価損益	—	△9
為替換算差額	10	△12
6月30日現在	3,331	3,270

### 社債及び借入金の公正価値

当社グループの非流動の社債及び借入金の帳簿価額と公正価値は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (2013年6月30日)		前連結会計年度末 (2013年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
銀行借入金	242,679	242,679	223,236	223,236
社債及びその他の借入金	62,482	59,406	62,463	57,986
リース債務	1,666	1,666	1,751	1,751
非支配持分に対する非持分 金融商品である優先株式	4,753	4,753	4,343	4,343
	311,580	308,504	291,793	287,316

当社グループでは、上の表に記載されたもの以外の資産及び負債の公正価値は、連結貸借対照表の帳簿価額に近似すると考えております。

(o) 偶発負債

(請求)

欧州競争法違反の疑いにより、2008年11月12日に欧州委員会が当社グループに対して過料を課する旨の決定を公表したことに基づき、当社グループは、顧客である自動車メーカー数社より、損害賠償請求の意図がある旨の通知を受領しました。当社グループは、このような請求に対しては抗弁を行う意向であり、また欧州委員会による過料の決定自体についても控訴を継続中であります。当社グループでは、これらの損害賠償請求のうちいくつかの案件について、それらの解決により予想される財務上の影響及び抗弁にかかる費用に備えるため、支出の可能性のある金額を見積り、引当金として計上しております。また、これら以外の案件については、当第1四半期連結会計期間末において請求の結果を予測することは時期尚早であり、現時点ではこれらの請求が将来の経済的便益の流出に至るとは見込まれておりません。

(p) 企業結合

当第1四半期連結累計期間において、重要な企業結合はありません。

前第1四半期連結累計期間において、以下の企業結合を行っております。

(Flovetro SpA社の取得)

当社グループは、2012年4月2日付けで、Flovetro SpAの株式のうち従来保有していなかった50%分の株式の取得取引を完了しました。同社は、これまでは当社グループが50%の持分を保有するジョイント・ベンチャーでした。同社は、当社グループの欧州自動車用ガラス事業に対してガラス製品を供給するフロートガラスの製造会社であります。

この株式の取得に関する契約条項に従い、当社グループは、従来同社のジョイント・ベンチャー・パートナーであったサンゴバン社に対して、現金対価として407百万円を支払いました。また、取得日時点における同社に対する既存のジョイント・ベンチャーの資本持分の帳簿価額は407百万円であり、当社グループはこの持分に対する再測定を行い、再測定益94百万円を認識いたしました。この結果、移転された対価と従来保有していた被取得企業の資本持分の取得日における公正価値の合計は、908百万円となりました。

取得した資産及び引き受けた負債の公正価値は、有形固定資産3,216百万円、棚卸資産724百万円、売上債権及びその他の債権1,556百万円、社債及び借入金3,452百万円（当座借越812百万円を含む）、仕入債務及びその他の債務874百万円、並びにその他の負債（純額）169百万円でした。この結果、被取得企業の資本持分の取得日における公正価値は合計1,001百万円となりました。

以上より、この取得取引から発生する負ののれん93百万円を収益として認識しました。前述のジョイント・ベンチャーの資本持分の再測定益と合わせて、前連結会計年度の連結損益計算書において、個別開示項目として合計187百万円の収益を認識いたしました。

なお、IFRS第3号「企業結合」において認められている通り、前連結会計年度末において、この企業結合取引によって取得した資産と負債の公正価値の見直しを行いました。上記の金額は、この見直しを行った結果を反映しており、前第1四半期連結累計期間において個別開示項目として計上した、子会社の取得による収益の金額とは異なっております。

(q) 前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正

注記（5）（c）「重要な会計方針」に記載の通り、当社グループは、IAS第19号「従業員給付」の改訂の適用を受けて、比較情報の修正を行っております。この改訂の適用による、前連結会計年度（2013年3月期）に係る比較情報の修正額、及び当連結会計年度（2014年3月期）の連結財務諸表における影響の実績額または概算額は、以下の表の通りです。

（単位：百万円）

	当連結会計年度 （自2013年4月1日 至2014年3月31日）	前連結会計年度 （自2012年4月1日 至2013年3月31日）
4月1日現在		
親会社の所有者に帰属する持分合計の変動	—	—
資本合計の変動	—	—
6月30日現在		
金融費用の増加	680	507
税引前四半期損失の増加	680	507
法人所得税の減少	154	128
四半期損失の増加	526	379
四半期包括利益合計の減少	526	379
退職給付引当金の増加	680	507
繰延税金資産の増加	154	128
親会社の所有者に帰属する持分合計の減少	526	379
資本合計の減少	526	379
基本的1株当たり四半期損失の増加（円）	0.58	0.42
希薄化後1株当たり四半期損失の増加（円）	0.58	0.42
3月31日現在		
金融費用の増加	2,722	2,028
税引前損失の増加	2,722	2,028
法人所得税の減少	616	512
当期損失の増加	2,105	1,516
連結包括利益計算書における退職給付引当金の 数理差異調整（法人所得税控除後）の減少	2,105	1,516
当期包括利益合計の変動	—	—
親会社の所有者に帰属する持分合計の変動	—	—
資本合計の変動	—	—
基本的1株当たり当期損失の増加（円）	2.33	1.68
希薄化後1株当たり当期損失の増加（円）	2.33	1.68

(r) 重要な後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2013年8月5日

日本板硝子株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大木 一也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高田 慎司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本板硝子株式会社の2013年4月1日から2014年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2013年4月1日から2013年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結貸借対照表、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本板硝子株式会社及び連結子会社の2013年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月5日
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長兼CEO 吉川 恵治
【最高財務責任者の役職氏名】	代表執行役副社長兼CFO マーク・ライオンズ
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表執行役社長兼CEO吉川恵治及び当社最高財務責任者である代表執行役副社長兼CFOマーク・ライオンズは、当社の第148期第1四半期（自2013年4月1日 至2013年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。